

役員所感

副理事長 大谷 和弘

【基本方針】

上越青年会議所が産声を上げてから47年が経ち、今まさに48年目のスタートが切れようとしています。この約半世紀にわたって繰り返されてきた事業と研修の積み重ねは、現役会員である我々にとってかけがえのない資産であり、誇りでもあります。

我々は上越青年会議所に在籍していく中で、様々な役職を経験し、いかにしてその職責を全うするかを考え、議論し、行動していきます。そのひとつひとつの積み重ねが、人間としての成長のための経験となり、結果、多くの人財を地域に輩出してまいりました。

しかしながら、昨今の少子化や経済状況の不透明さにより、全国的に青年会議所の会員が減少傾向にあり、在籍年数の短期化が顕著に進んでいます。上越青年会議所も例外ではなく、2014年の50周年までに現会員の半分が入れ替わり、平均在籍期間も大幅に短くなってしまうことがわかっております。私は在籍12年目になりますが、私が12年間かけて先輩から教えて頂いた様々なことを、大幅に短い時間の中で、これからの上越青年会議所を担う後輩たちに伝えていかななくてはなりません。このことは、私が副理事長としての職責の中で常に頭に置いておかなければならない大きな命題であります。

そして今年度担当する夢見る子ども育成委員会、背中で語る教育推進委員会が構築していく事業に関しても同様のことが言えると思います。それは、夢を見ることや、大人としての社会に対する姿勢を示すこと、我々が親から受け継いだものをしっかりと形で、我々の次の世代を担う子供たちに伝えていかななくてはなりません。事業を行う目的とそれによる結果を明確にし、そのためには何をどうしなくてはならないのか、そして目的を達成できたのかどうか、今まで私が先輩から教えて頂いたことの全てを次の世代に、時には厳しく、時には優しく、叱咤激励しながら伝えていきたいと思っております。

残り2年となった私の青年会議所での時間の中で、今まで自分を育ててくれた上越青年会議所へのご恩を返すべく精進していきたいと思っておりますし、自分自身もこの立場をしっかりと演じ切りたいと思っております。